

親愛なる先生および主にある兄弟姉妹の皆さま

天よ、歌え、地よ、喜べ。もろもろの山よ、声を放って歌え。

主はその民を慰め、その苦しむ者をあわれまれるからだ。(イザヤ書 49:13)

1・回想

私は 1995 年に台湾の浸信会神学校を卒業して、日本にわたり宣教を始めて 20 年近い歳月が経過しようとしています。思い起こせば、それは昨日の出来事のようにはっきりと覚えています。その時、神さまは私に次のような言葉で語ってくださいました。「あなたの泣く声をとどめ、目の涙をとどめよ。あなたの労苦には報いがあるからだ。」「また祭司のたましいを髓で飽かせ、」(エレ 31:16、31:14)

こうして、無一文の状態、ただ神さまのみことばとみ約束を頼りに、日本宣教の道のりを歩み出しました。神さまは真実なお方であり、満たしてくださる神であります。私が歩んで来ましたが道のりにおいても、神さまは教会と兄弟姉妹らを通して助け支えてくださいました。それは聖書の「裸の丘の至る所が、彼らの牧場となる。」というみ言葉のようでした。この 20 年の歳月を顧みますと、多くの困難と戦い、つまづき立ち上がれないようなこともありました。幾度となく涙を讚美に変え、一生を得、毎回打ちひしがれながらもそれが益となりました。この 20 年を振り返りますと、まさにモーセの言うように、「着物はすり切れず、足ははれなかった」と言うことができます。

2・ビジョン

私は日本に来て日本語学校に在籍していました。ある日、日本の姉妹の家へ向かう途中、私ははっきりと目を覚ましていながらまぼろし幻を見ました。それは一編成の電車が日本人を乗せて地獄へ向けて走っているというものでした。多くの日本人はいつもの生活と変わらない様子で、行先など気にしていないようでした。そもそも電車に乗っている人たちは、それが地獄行きの電車と知らないので抗うことも不安になることもなかったのです。この幻を見たとき、私はひどく悲しみ、姉妹の家にとどき着くと、「まず跪いて私と一緒に祈ってくださいませんか。」という言葉しか出なかったことを覚えています。それから私は大声で泣き叫びました。その多くは異言による祈りで自分自身でも分かりませんでした。しかし、日本人に対する重荷はその時から深々と私の心のなかに刻まれたのです。自分の日本語能力もよく分かっていましたので、まず華人之家を開拓し立てあげ、この華人教会を通して日本人に福音を宣べ伝えることにしたのです。現在では、私たちの教会には日本語部があり、主日礼拝には日本語への同時通訳を行っています。

3・虹

2010年12月末に私はアメリカのIHOPへ赴き、「One thing」をテーマとする特別集会に参加しました。飛行の途中、私は窓際の席で雲を眺めていると、幻を目の当りにしました。それは非常に鮮やかな虹が飛行機を取り囲んでいる光景でした。その時、強く神の栄光と超自然的な守りを感じることができました。日本に戻って間もなく、2011年3月11日の大地震と大津波を目の当りにした時、私は深い悲しみに苛まれました。私が飛行機に乗り、車を借りて被災地に赴くと、言葉にもならない惨状が目の前に広がっていました。大自然の破壊力は人間の手で阻むことが不可能だということを悟りました。

被災地から戻ると、私はしばらく病に伏しましたが、その後、日本の諸教会とともに被災地の支援に参加しました。その時、自身の力の限界と被災地復旧のための無力を強く感じました。被災地から戻ると、私は密かに決心をしました。それは、まず神が私に託された小さな事柄に忠実になるということでした。つまり、まず京都華人之家を立てあげるといことでした。それで私は毎週名古屋と京都を往復することとなったのです。感謝なことに、京都華人之家は2012年に名古屋の支援を得て献堂することができました。そして両地の教会は安定して成長し、献堂の借入もようやく完済することとなりました。

4・使命

今年5月、ゴールデンウィークの特別集会を終えて、私は海辺で静まり休息をとっていました。夜中眠れず聖書を読みたい思いがこみ上げてきました。ハガイ書を開くと「この民は、主の宮を建てる時はまだ来ない、と言っている。」とみことばがありました。また、そこには繰り返し「宮を建てる」とことと神が望んでおられることが示されていました。その時、私は神さまが宮を建てると言われているのが単なる献堂だけを意味するものではないことを悟りました。教会に戻った後、主日に兄弟姉妹たちにハガイ書の「宮を建てる召命」について分かち合うと、自分たちのすべての貯えを宮の立ちあげのために用いることとなりました。その後しばらくして私は海辺で一つの物件を見つけました。それはもともと海に面した結婚式場で、2階には礼拝堂があり、土地は811坪、建物は200坪あまりのものでした。

私はこのような広い所をどのように用いるのか、津波は大丈夫かなどと思いました。このような自然的な疑問が一つ一つ脳裏に浮かんできたので、私たちはよりしっかりと神の御前に出て祈り求めました。5月28日に17名のとりなしの祈りの奉仕者は、物件の所有者にお願いして物件のなかでともに祈りました。私たちが2階でともに祈っていると、ある姉妹は虹が私の足元に出ているのに気づきました（その時、私は目を閉じていたので見てはいませんが）。その姉妹はその時、何を意味しているのか分かりませんでしたので、ずっとそれを眺めているだけでした。

また、さらに深く神に祈ってしるしを求めると、「海辺よ。おまえは牧場となり、牧者たちの牧草地となり、羊の囲い場となる。海辺はユダの家の残りの者の所有となる。彼らは海辺で羊を飼い...、主は彼らを脅かし、地のすべての神々を消し去る。」（ゼパニヤ書2:6-7、11）というみことばを神さまは与えてくださり、私自身も何度も現地へ赴き祈りをささげました。そうして、神さまが現地の人々の心も整えてくださり、現地の警察署や旅館、不動産会社、釣客へも華人の教会がその地で最も大きな建物を購入

するということが知れわたることとなりました。しかしその教会の牧師が私であることは知りませんでした。

このようにして、神のみ言葉が与えられたことにより、私たちは確信に満ちて積極的に家主と価格交渉を行うことができました。もともとの提示額は1億4千5百万円でしたが、私たちには手持ちがありませんでしたので、祈りに祈り、また神さまに価格が下がるようにも願いました。2か月あまりの祈りと交渉を経て、ついに8月20日に正式に1億2千3百万円で購入契約を結び、私たちは1千2百30万円の契約金を支払いました（但し5月の時点ではこれほどの金額はありませんでしたが、多くの兄弟姉妹が導かれ献金がささげられました。そして、神さまのなさることは本当にすばらしく、ちょうどその契約金の額に達することができました。）。

さらに私たちは祈りを通じて、神さまが私たちにこの日本において、「祈りの宮」を立てあげ、日本およびアジアのためにとりなしの祈りをさせようとしておられることが更にはつきりとなりました。ですから、この「祈りの宮」の立ちあげは私たちの教会の献堂のみならず、神さまが日本に「昼となく夜となく祈りをささげる」拠点を立てあげることであります。このようなプレッシャーに直面して、6月には私の身体に不調をきたしてしまいました。教会のとりなしの祈りの奉仕者の支えやアメリカのIHOPによる7月の断食祈祷の招きにおいて（私たちの教会はその招きに応じていました）、霊的な克服と勝利を得ることができ、私の体調も快復しました。深い確かな祈りの力は終末の戦いにおいて極めて重要な武器となり、それは敵の陣営を攻撃破壊して有り余るほどです。

5・使用

この建物は「祈りの宮」と「集会・礼拝」としてだけではなく、私たちは「結婚式場」としても用いるという重荷があり（もともとその用途で用いられていましたが）、福音を伝える媒体として日本人や華人のために用いたいと考えています。結婚前の聖書学習などだけでなく、結婚式に集われた方々すべてに福音を伝える伝道の機会としたいのです。今週ある方がアメリカの慕主先鋒教会で、台湾の淡江教会が海辺に会堂を建てて結婚式伝道のために用いられることが伝えられていると教えてくれました。私は心のなかで人知れず神さまに敬服しました。異なる地で、異なる人に同じ思いを与えてくださるとは、ハレルヤ！これらの用途のほかに、私たちはここで「特別集会と子どもキャンプ」も行い、私たち自身と次世代を育て、主の再臨の先鋒者を整えたいと考えています（建物の附近には人工島があり、その砂浜や公園施設は無料で利用できます。）。

6・近況

この間の「祈りの宮」立ちあげのプレッシャーで食べる量が増え、ずいぶん太りました。以前は甘い物は好きではありませんでしたが、今では美味しいと思うようになりました。これまでコンピュータを使わなかった私が、今では毎日iPadを手放さず、LINEによって教会の兄弟姉妹と相互に連絡を取り合っています。現在では教会の仕事が多くなり、時間はますます少なくなり、体力にも限りがあり、時間

も限られた中、ただ優先順位に基づいて行うしかない状況です。しかしながら、感謝なことに、教会のグループ・リーダーたちが私の牧会の仕事を分担してくれています。また、奉仕者たちの成長も神さまに感謝しています。

教会は来年 11 月に「日本での宣教 20 周年の祝典」を行うことを予定しています。私たちは 100 名をもてなすことのできる厨房も整えています。来年皆さまがともにご参加くださることを願っています。私自身は 3 か月以内に祈りの宮を順調かつ迅速に完成させたいと願っています。そして「祈りと伝道」を主とする生活に戻りたいと思っています。時には私はまるでずっと教会を代表して会堂を購入したり、献堂したりしているかのように思ってしまうほどです。ある人は私に「あなたからの電話や手紙はいつも献堂のことばかりだ」と冗談を言いますが、私はいつも「私たちは成長したので、小さな器を大きな器に換えなければならないのです」と答えています。

私の日本語が最も活躍するのは教会のために不動産を購入するときです。なんと神さまはユーモアに富んだお方でしょうか。日本語が流暢でない者を用いて、あれこれ交渉をさせられます。しかし、面白いことに毎回私たちに不利な事に話が及ぶ時、私は聞き取れないか聴こえていないかで、最後にはいつも神さまが私のところに与えてくださった思いの通りになります。ハレルヤ！神さまは本当にすばらしいお方です。

May the LORD bless you from Zion all the days of your life.

主内 Esther 黄麗卿

主の年 2014 年 8 月 28 日

注記：すべての栄光を主にお帰しします。主は私たちに大いなることを成し遂げてくださいました！会堂は 2014 年 12 月末に順調に私たちに引き渡されました。2015 年 11 月 21 日の午前に献堂礼拝を捧げました。